



草加市立病院開設50周年記念講演 脳卒中の診断と治療の進歩

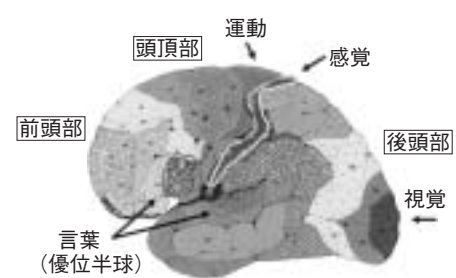
東京医科歯科大学医学部長 脳神経外科教授 大野 喜久郎

脳卒中の症状

脳卒中の症状は様々で、
機能的でない部位もあり、そこに脳梗塞が起ころもはっきりとした症状は現れません。これが「かくれ脳梗塞」と呼ばれているものです。

脳ドック健診により、この「かくれ脳梗塞」の診断や、脳の血管の異常(動脈瘤の存在など)をあらかじめ知るということが可能となります。

一方、脳の中にはあまり機能的でない部位もあり、そこに脳梗塞が起ころもはっきりとした症状は現れません。これが「かくれ脳梗塞」と呼ばれているものです。



左写真の矢印は未破裂の脳動脈瘤。右写真はクリッピング術後、瘤がつぶれている。

脳卒中の予防

脳卒中の予防は、動脈硬化につながることに留意することです。高血圧は言うまでもなく、糖尿病や高脂血症に注意して塩分の少ないバランスの良い食事と、禁煙及び過度の飲酒を控えることが大切です。

脳卒中の原因

脳卒中の原因の多くは高血圧です。長年続いた高血圧により、血管に動脈硬化が起きます。若い頃ははなやかに丈夫な血管であったものが、硬くもろいものとなってしまい血圧に耐えきれず破れたり(脳出血)、壁が厚くなって詰まらせたり(脳梗塞)します。

脳卒中の予後

脳卒中の予後は、動脈硬化につながることに留意することです。高血圧は言うまでもなく、糖尿病や高脂血症に注意して塩分の少ないバランスの良い食事と、禁煙及び過度の飲酒を控えることが大切です。

現在、外科に配属されていますが、今日の患者さんは大腸憩室からの消化管内出血の症例で、状態が安定していったため、

また、救急診療科では、腹痛から交通事故、脳卒中までと来院される患者さんはいとも様々で、どのような症例であっても、



ナースステーション(昭和50年)
現在のナースステーションとは大きく異なり、周りがガラス張りになっているものの、オープンカウンターではなく個室になっていました。



待合室(昭和50年)
待合室は大変混み合っていました。朝9時からの診察にもかかわらず、玄関前には朝6時頃から数十人の患者さんが並んでいました。



薬局受付(昭和50年)
当時は院内処方だったため、薬剤師が窓口で服薬指導を行い、薬を手渡していました。



会計窓口(昭和52年)
会計業務で電卓やそろばんを使用していたため、窓口では2~3時間待ちは当たり前だった。



市立病院落成式(昭和42年)
病院の新築工事が完成し、昭和42年6月20日には病院関係者を招き、落成式が行われました。



広報そうか(昭和41年12月発行)



あの頃を振り返る

草加市立病院のあゆみ

草加市立病院の前身である「草加町国民健康保険直営診療所」が開設されてから今年で半世紀。この間、病院は大きく変貌を遂げました。昭和33年5月、同診療所は内科・外科・産婦人科、病床数2床でスタートしました。以後、急激な人口増加とともに病院の利用者も増えたため、病棟の増改築工事を行い、昭和49年3月には病床数209床を有する地域の中核病院となりました。

この間、診療科に小児科や整形外科も加わりました。さらに、眼科、皮膚科、胃腸科、耳鼻咽喉科、循環器科も加わり、昭和62年12月には総合病院の承認を受けました。そして、平成16年7月、現在の場所に新築移転し、18診療科、病床数366床の新市立病院に生まれ変わりました。当院は、今後も市民の皆さんのいのちと健康を守るため、さらなる医療サービスの向上に努めていきます。



旧市立病院全景(昭和49年)

旧市立病院(昭和43年)

昭和42年6月に一般病床が100床となりました。なお、同年4月には地方公営企業法の財務規定等の適用を受け、名称を「草加市立病院」と改めています。

- 昭和33年5月 草加町国民健康保険直営診療所開設 (所長・副島圭一氏 内科・外科 産婦人科 病床2床)
- 昭和36年2月 草加市立病院開設 病床25床
- 昭和39年2月 救急告知病院三好栄一病院長就任
- 昭和41年10月 伝染病舎併設(30床)
- 昭和42年4月 草加市立病院(名称変更)地方公営企業法一部適用(財務、小児科設置)
- 昭和42年6月 病床100床
- 昭和48年8月 整形外科設置
- 昭和49年1月 津崎滋病院長就任
- 昭和49年3月 病床209床
- 昭和51年6月 眼科設置
- 昭和52年11月 皮膚科設置
- 昭和54年7月 人間ドック開設
- 昭和55年4月 胃腸科設置
- 昭和55年7月 耳鼻咽喉科設置
- 昭和56年7月 病院運営審議会設置
- 昭和58年4月 鈴木文男病院長就任
- 昭和58年7月 循環器科設置
- 昭和62年4月 重症者の看護 収容実施承認
- 昭和62年12月 総合病院の承認
- 平成2年4月 泌尿器科設置
- 平成3年4月 八重樫寛治病院長就任
- 平成4年5月 新市立病院検討委員会設置(市企画財政部内)
- 平成8年5月 院外処方開始 眼科耳鼻咽喉科産婦人科
- 平成9年5月 優良病院自治大臣表彰
- 平成10年3月 高エネルギー治療装置(リナック)導入
- 平成11年4月 病院事務局内に病院建設室を設置 伝染病舎廃止
- 平成12年3月 新市立病院建設用地取得
- 平成12年12月 M・R・I導入
- 平成13年1月 院外処方全科で実施
- 平成14年7月 新市立病院建設工事着工
- 平成15年1月 地方公営企業法全部適用
- 平成15年4月 救急隊ホストライフ設置 脳ドック簡易開始
- 平成15年9月 救急医療功労埼玉県知事表彰
- 平成16年1月 病院の基本理念・基本方針を制定
- 平成16年3月 新市立病院建設工事完成
- 平成16年7月 新病院開院
- 平成17年10月 病院事業管理者(兼)病院長 高元俊彦氏就任
- 平成18年2月 彩の国景観賞受賞
- 平成19年10月 産科再開

臨床研修医 奮闘記

研修医 飯塚 泰弘 (筑波大学医学専門学群卒業)

私が勤務する草加市立病院は地域の基幹病院であり、内科、外科ともに様々な症例や手術を経験することができます。また、設備が新しい、仕事をしやすい環境も魅力で、毎日新鮮な気持ちで研修に臨んでいます。

また、救急診療科では、腹痛から交通事故、脳卒中までと来院される患者さんはいとも様々で、どのような症例であっても、

研修医としてではなく、術野に近い場所から見学、研修をさせて頂きました。

草加市立病院は研修医に対しても柔軟な指導方式を持っており、積極的にあれば様々な経験をさせていって頂くことができます。

先輩医師の優れた技術と経験に学びながら、自分の将来の進路を決めていきたいと思います。

※草加市立病院は臨床研修指定病院として、全国から優秀な研修医を受け入れています。